

# 中山間地域の振興に向けたショウガ産地の育成

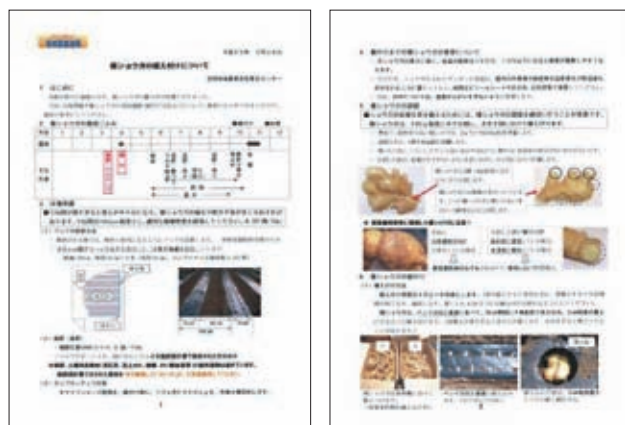
県央農林事務所 笠間地域農業改良普及センター

城里町では、ゴボウ、ナガイモの栽培が価格低迷などから減少し、一方で担い手の高齢化や耕作放棄地増加も相まって地域農業の活力の低下が目立ってきていました。そこで、これらの対策を関係機関で検討し、代替作物の一つとしてショウガを推進しました。平成 20 年に開始されたショウガ栽培は年々拡大し、新たに定年帰農者や女性農業者も取り込み、平成 24 年度には 75 名、8.0ha までになり、更に全部会員がエコファーマーとして環境にやさしい栽培方式に取り組んでいます。

## 関係機関一丸となった栽培支援

県内での大規模栽培例がなかったため、普及センターでは、写真を多く用いた分かりやすい月ごとの栽培管理資料を作成し、JA、全農いばらき中央VFSとともに、月1~2回の頻度で栽培講習会や全戸個別巡回を実施し品質の向上に努めました。

加えて、病害多発予想時には普及速報を発行し、防除の徹底を呼びかけました。



新規栽培者の参考書となる栽培講習会資料



栽培技術向上を図る現地講習会

## 地域への普及

関係機関一体となった「きめこまやかな支援」や「収益性の高さ」などから、平成 20 年に 9 名、74 a でスタートしたショウガ栽培は、平成 24 年には 75 名、8ha と 4 年間で約 10 倍の面積になるなど急激に拡大、販売額も 3,000 万円を超えるまでとなりました。

また、定年帰農者や女性が 4 割程度を占めるなど新規栽培者の獲得や農地の有効利用に寄与しています。

## 実需者の信頼を得るための取組み

実需者の信頼を得るために、平成 24 年 3 月に全部会員がエコファーマーの認証を取得し、環境にやさしい栽培方式（堆肥施用・有機質肥料の使用・マルチ栽培等）を実践しています。

また、農薬使用回数を更に低減するために、交信かく乱剤（性フェロモン剤）の利用なども検討しています。



性フェロモン剤の効果確認